

質屋渡世年季継願書

元治元子年より

明治四未年季明

一 質屋株

此御冥加永式百式於文

内永式於文

但継年季増永

但当申より已迄 十ヶ年季

同断

一 質屋株

此御冥加永式百式於文

内永式於文

但継年季増永

但右同断

同断

一 質屋株

此御冥加永式百式於文

内永式於文

但継年季増永

右 村

当御管内

羽前國村山郡

六番 松橋村下組

宮 地 治兵衛

同 村 同 組

秋 場 文 藏

同 村 上 組

堀 米 養 意

但右同断

右は廣屋株継年季精々増永仕奉願上々に付書面の通御届届ヒ成下置度此段乍恐奉書上々以上

右村

願人

宮地治兵衛

明治五年壬申
(一八七三年)

明治五年

壬申三月

同所

秋場文藏

同所

堀米養意

組頭

宮地孫三郎

山形

布川万次郎

天童

御出張所

五二

乍恐以書付御届奉申上々

当御管内々四大区小七区左の者共一同奉申上々当区村々物産繁盛仕度重立百姓共奮発勉強仕
桑茶植立追々養蚕茶製等を起し無作無業の者一般營業為致度就中吉田村の義は畑勝の故歟連
年米価高値村内頻に困窮仕向多分桑植立養蚕の大利を為得度尽力罷在尤堀米要柴田弥士申
壬申八明治五年

以末格別丹精仕桑苗数千本植付盜難為豫防番小屋設立相応の年給を以番人相雇着置小処過般御届奉申上く通右小屋江火を附焼拂いに付相糺い得共何者の仕業に小或不相分無拠猶又小屋造作仕更に番人を相雇為見廻置い得共手廣の耕地悉くは不行届去年末桑苗十本二十本宛盜取亦は抜き捨い分も不勘且夜中桑葉処々多分に盜コキ取い義に付追々間糺手掛り有之小は、速に御訴可申上と心配罷在い処当月十四日番人見廻に罷出い苗守中右小屋壁障子等散々打破り住居難相成様仕右吉田村小前の者共追々営業可相成と多分相悦罷在い得共何者に小或不良盜人有之番小屋等ヒ取設いては我意の通不相成より右様の所業仕い義と奉存夫々相糺い得共不相分前、奉申上く通桑植付い義は小一御趣意を奉戴し且は貧村を更に富臈仕小様致度多分の金差出植立方精々罷在い処聊の事とは乍申自然尽力の気込も相弛ミ物産繁殖の妨害可相成と深く歎息仕前段の次御届旁奉申上く 以上

第四大区小七ノ区

松橋村

二等戸長

堀米

要

二等区长

柴田

弥

吉田村

副戸長

渡部

善次郎

同村

戸長

細矢 条 岩

山形縣権令 関口 隆吉 殿

明治七年
(一八七四年)

明治七年戊午

正月十七日

五三

記

一 叔千五百三拾壹石七斗六升

此代金千百七拾壹円七拾九錢六厘

但入札直段叔壹石三付

金七拾六錢五厘ツ、

右は其区内柴橋村積穀先般入札拂申達小宛元積出小村々よて拂受度旨申出入札を以願出小間
格別の訳を以前書之通松下小条前書金高早々取纏上納可致此段相達小也

明治七年
(一八七四年)

明治七年五月十七日

租 税 課

五四

第四大区小二ノ区

区 長 副

別紙の通御産相成小条明二十一日午前才八時迄無御名代御出張も成下度此段御依頼申上へ也

明治七年
(一八七四年)

明治七年
五月廿日

第四大区小二ノ区

小六区
御区长 西川耕作様
松橋村 堀米 要様

区长 渡部 藤右工門

上書 願書

第四大区七小区
松橋村 堀米 奥

本文の趣願出小ニ付換印仕小以上

第四大区七小区々長
細矢 巖太郎

五五

乍恐以書付奉願上

私儀

兼て病院御資本金として金五百円献納願の上勝手を以永拜借罷在小宛今般特別の御詮議を以
本年の七月より更に無利息拾ケ年賦上納可ヒ仰付段御達の趣拜承難有仕合ニ奉存、仍之別紙
証書奉差上小条最前差上座小証書ヒ御引替ヒ成下度此段奉願上、 以上

明治八年
(二八七五年)

明治八年
十二月

第四大区七小区
松橋村 堀米 奥 印

前書の趣願出小ニ付奥印仕小以上

古同村戸長 堀米 奥 印

書面願の趣面届証書引替下戻し置事

明治八年十二月廿五日

権令 關口 隆吉 代理

山形縣七等出仕 河野 通倫 印

五六

乍恐以書付再御届奉申上

第四大区七小区松橋村堀米奥奉申上小当四月二日午後十一時私屋敷内居宅より四十間余相離
小藪小屋右ケ所焼失仕小ニ付副戸長守野仁左エ門より其段御届ケ申上、処右は取急き小故糺
方不行届盜賊の仕成にも小裁判然不仕旨申上、処跡にて篤ト相糺小処同日日雇に参り居小守
野富藏右小屋江繩仕事に参り煙草火持参の処又方其係引取小ニ付右火鉢より出火に相成小段
分明小ニ付乍恐此段再御届奉申上、以上

明治九年
(一八七六年)

明治九年 四月六日

山形縣七等出仕 河野 通倫 殿

右
堀 米 奥

禪宗

第四大区七小区

松橋村堀米奥方当時雇人

同区同村十七番地借地居住

農 宇野富藏

五拾式六六ヶ月

自分儀明治九年四月二日夜堀米奥屋敷内に有之小屋壹ヶ所焼失仕仕末御召に御座く

此段私儀兼て堀米奥方江雇人にて農稼罷在仕処本年本月二日雇主奥居宅より四拾向余相離

札小小屋まで藁仕事致居其節同所江兼末の瀬戸火鉢持行煙草を吞午後六時頃其場江其伏差

置引取仕右小屋江は別段困等も無之儀に付聊吹風にて右火鉢江藁飛入夫より火氣移リ及

出火に小屋壹ヶ所焼失仕仕義相違無御座仕右者全ク兼コツの取扱仕仕より出火及焼失小段

重々奉恐入仕

右之通相違不申上仕 以上

右 宇野富藏

明治九年
(一八七六年)

明治九年
四月十日

山形縣七等出仕河野通倫殿

羽前國村山郡松橋村

堀米奥雇人

宇野富藏

其方儀本年四月二日雇主奥方物置小屋にて薰任事致ス初火鉢持入り其係差置に付午後六時頃
 に至り火鉢より自然薰江火移り終に右小屋及燒失科改定律令オ式百七十四條に比照し徵役三
 十日の贖罪金式四式於五錢申付ル

但贖金ハ五月以内可納事

明治九年四月十一日

明治九年四月十一日	四ノ第五十号	納人	松橋村 中野富藏
	一金壹四式於五錢	要摘	
	右正ニ請取候也		
山形縣 裁判所			

本文之趣願上矣ニ付換印仕矣以上

第四大区小四区 区长 入向 昇 印

五八

乍恐以書付奉願上

第四大区小四区 吉川村地内

新山神社元朱印地

一反別 式反五畝式步

、内訳ケ

字五百十番 中田壹反三畝廿六步

字五百三十六番 中田五畝於三步

字六百廿九番 田六畝三步

字六百五十四番 田 廿步

右は次四大区小四区吉川村新山神社元朱印地上地之分去ル文政十年正月申別紙確書之通同村
右衛門四郎ヨリ讓受所持来リ矣ニ付何卒出格之以御詮議無代価ニテ私江御下渡シ被成下置度
保証人連印此段奉願上、以上

第四大区小七区松橋村

願人 堀 米 奥

代印 粹 要

保証人堀 米 直 藏

明治九年
(一八七六年)

明治九年
九月三十日

山形縣参事薄井龍之殿

前書之通願出候ニ付與印仕矣 以上

戸長 笹嶋長左エ門 印

五九

學校資金拜借ニ付願書

一金百五拾七円六拾弍銭五厘

右は今般要用の儀有之學校資本金の内拜借仕度元利返納の儀は御定規の通違皆仕向敷引当物の儀は別紙の通差出申向此段奉願也

第二大区七小区松橋村

願人 堀 米 実

同郡同村

請人 堀 米 利四郎

明治九年
(一八七六年)

明治九年
十一月

山形縣令 三嶋通庸殿

六〇

拜借証書之事

一金百五拾七円六拾弍銭五厘

此利 年壹割 但 六月十二日
納

此引当

松橋村地内
百四十六番
字吉田東

一田五反四畝於四歩

此地価金式百三拾入円九拾七匁三厘

右者今般要用之儀有之学校資本金之内ヨリ前書ノ引当ヲ以テ拜借仕ル処相違無御座、然上ハ
利子上納ハ前書ノ期月元金ハ満巻ケ年ニ至リ無相違返納可仕ル万一期限ヲ過上納滞ル節ハ引
当地券面地所直ニ御引上ヒ成ルトモ一言ノ申分等決而仕間敷依之証書差上ル処如件

第二大区七小区松橋村

明治九年
(二八七六年)

明治九年

十一月

拜借願人 堀 米 奥
同所同村

請 人 堀 米 利四郎

山形縣令々三嶋通庸殿

六一、

民費課出ニ付伺

村々人民ヨリ民費課出ノ儀ニ付左ノ件々伺出矣尙左之通奉伺

私 共

一本年二月乙第十五号ヲ以テ御達相成ル民費御課出ノ儀ハ正租五分ノ一ヲ以テ御課出相成ル
哉

一民費卜称スル者本年乙才十五号御課出ノ費額ニ限此ヲ民費卜ナスヤ将タ地価戸数ヲ以テ総
テ人民ヘ徴課スルモノ亦民費卜ナスヤ

乙次十五号御達中

一里保正年給之儀何ヲ以テ民費御課出ナキヤ下民恐クハ惟ク区长ハ其大区中人民ノ惣代戸長
ハ一小区人民ノ惣代里保正ハ一町村人民之惣代タリ職務上其事、大小アリト虽モ同シク官ト
民トノ向ニ在リテ其人民ヲ保護スルハ一也此理ヲ以テセバリ保正ノ年給タルヤ区长ノ月
給ト民費課出同一タルモ亦可ナラン然ニ其区分アル如何

一民費御課出ノ縣广修繕費ノ目アリ

一本年民費御課出之儀地價ニ課シテ戸数ニ課セサル何ソヤ夫レ警察区入費ノ如キ人タル者幾
分力其費ヲ出シテ其勞苦ヲ酬ハサルノ道理ナキモノトス然ルニ本年ノ民費戸数ニ課セサル
其故如何

一官ヨリ徴課スル民費ノ外民費調ノ書目ニ一町人民ニ管スル云々ノ費目アリ其ヲ何ト名ツク
ルヤ将官ヨリ課出ニナル民費外何程増課アルトモ官是ヲ問サルカ

一当郡置縣以來六七小区ノ区入費ヲ概算スルニ一ケ年金八九拾円或ハ百式三拾円多クモ百五
拾円ニ滿タス然ルニ本年区入費之多キ実ニ民費ニ堪工難シ下民或ハ誤認アルモ何ヲ以テ費
額ノ増額アルヤ右之趣私共村々人民ヨリ伺出小ニ付無余儀奉伺小問何分之御指令ヒ成下度
此段奉伺小也

明治十年
(一八七七年)

明治十年

三月五日

第二大区六七小区

村々連印

山形縣令 三嶋通庸殿 代理

山形縣大書記官 薄井龍之殿

書面伺之件々太政官 才五十三号公而も有之

本年六月迄は適宜賦課ハ義と可相心得置事

明治十年三月廿三日

六二

民費課出之義ニ付願

第二大区六七小区村々私共一同奉願上、凡ソ百般ノ公費タルヤ一般ノ人民江之ヲ課ス人民又之ヲ納出スハ今日人民タルモノ、義務然レトモ地価ニ課スベキモノアリ戸数ニ課スヘキモノアリ本年乙才十五号民費御課出ノ御達ニ因レハ公明ナル懸廣ニ於テ深キ御主意モヒ為在御課出ニ相成ハ儀ト奉存ハハ一小区一小村細民私共ニ彼是可奉申上儀ニハ無御座ハ得共恐ラクハ之ヲ云ハン夫レ区戸長ノ月給大小区ノ費用及警察費ノ如キ道理上幾分カ戸数ニ課ス人民モ亦此費ヲ出スハ至当ノ事ト奉存、之ニ依テ地価戸数ノ分拆課出法御施行ト成下度奉存、且区費ノ儀或ハ其所以アルモ本年太政府才一才二号公布ニ因レハ日ヲ追テ費用制減相成ハ儀ト奉存、得共本年乙才十五号ノ御課出ハ当郡置縣以來ノ増額尤几百ノ公費渾テ地価ヲ以テセラル農民納收ノ苦忘ル、日ナシ実ニ困却仕小尙何平右難波ノ事情御洞察ノ上大小区ノ費用ヲ制限セラレ幾分カ戸数江賦課相成ハ極速ニ御南届御施行ト成下度此段一同奉願上小也

(朱筆三才)

書面之趣才一條区費戸数割の儀は一應尤之沢才ハ得共一区一村の都合を以テ今更御改正相

明治十年
(一八七七年)

成小儀無之道理上戸数ニ課ス云々縦令借家之者ト虽モ借料ヲ差出家主石金円ヲ以テ区費ニ充ル上ハ幾分ノ当リ有之筈事務取扱上ニ於ケルモ戸数ニ課シトテハ不都合容易村落モ有之儀ト存小一応廣リ管内ノ便宜ニ着目更ニ伺出小儀ト可相心得小事才二條一号二号ノ公布且置懸以來ノ増額ト記載有之ハ文意相当ラス才廿三号御達ノ通区費節減ハ後半年ト可相心得今日ニ於テ論議主張スル推理聊無之事才三條区費節減ノ儀ハ即今取調中ニ付追テ調書可觸示小事

但一小区五百円ト有之分大低式百五十円位ニ見込致事
前書ノ通可有之進達ニモ無詮次第先以本紙及返附小也

明治十年四月廿四日

服部副区長

見留印

六三

委任届

私共儀

今般民費正租五分ノ一ヲ以里保正給料ハ勿論村費共悉皆消費相成小様其筋へ上申イタシ吳小段才二大区一小区西根村小野真萩殿同区五小区海味村佐藤里治殿同区六小区西里村西川耕作殿右三人江惣願小ニ付テハ時トシテ照会等相成小節ハ何分可然様御答議ト成下度依頼小依之一同連署ヲ以委任書差出申処如件

但惣代旅費日当共金七拾弍ノ其他右江関スル諸費一切可差出事

山形縣羽前國村山郡
第貳大区七小区松橋村

明治十年
(一八七七年)

明治十年八月三十一日

青	嵐	内	齊	小	宇	阿	阿	齊	申	堀	堀	黒	坂	布	宮	秋	宮	宮	堀	堀	堀
山	田	藤	藤	野	野	部	部	藤	野	米	米	坂	坂	川	地	場	地	地	米	米	米
小	久	金	清	長	佐	太	與	吉	与	四	養	伊	佐	万	文	文	啓	治	利	直	
	五	三	之	兵	平	兵	兵	兵	郎	郎	意	七	五	次				兵	四		
助	郎	郎	助	衛	治	衛	吉	衛	藏	治	意	七	衛	郎	七	藏	藏	衛	郎	藏	奥
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	印

第二大区七小区

小区惣代人

大町村

柴田 彌殿

齊藤 勤兵衛
細矢 九十郎

六四

委任状

私共儀

今般委任候儀ハ民費正租五分ノ一ヲ以テ里保正給料ハ勿論村費共悉皆消費相成小様各位ヨリ
其筋ヘ何分上申ノ末速ニ御施行相成小様願ニ候然ル上ハ右事件ニ付何様ノ義立至リ小共助申
分等決而無之小依之一同連署ヲ以委任書差出申廻如件

明治十年八月三十一日

山形縣羽前國村山郡

第二大区七小区松橋村

第二大区志小區

西根村

小野 眞菽殿

同區五小區

海味村

佐藤 里治殿

同區六小區

西里村

川 耕作殿

明治十年
(一八七七年)

民費之儀ニ付伺

一 明治六年太政官式百七十七号及昨明治十年式号郡村費トスル正租五分一民費ノ儀大小
 区區費及警察費等ニノミ止ラス必ラス一町一村ノ事務ニ係ル定用民費トスルモノモ亦郡村
 ノ部分トナルハ論ヲ待タス此理ヲ以テセハ各町村ノ費用ハ一般五分一ヲ以テ支給可相成筈
 然ルヲ昨十年村費ヲシテ別途協議費ニ附スルハ人民ニ於テ了解難仕ハニ付其事由御示ニ相
 成度

一 本年乙未六号ヲ以テ十年度後半ケ年民費概算御課出科目ノ内堤防橋梁費ノ儀ハ素ヨリ御成
 規ノ通り土木起功ノ協議ニ因ルヘキモノニシテ彼令五分一民費ヲ以テ支消スルモ各惣代人
 ノ協議ニ附シ其承諾ヲ得サルベカラサルモノト各人民ニ於テ確認仕ハ依之右費用ハ概算科
 目ヨリ御除キ相成度

一 正租五分一民費ノ儀容後丙才十七号ヲ以テ緩急民費ヘ適宜支消スヘキ旨御達相成ハ得共素
 ヨリ適宜消費スヘキ民費ニハ何ヲ以テ概算民費御課出アルヤ尤御達ノ通り適宜消費ス
 ヘキ民費ナラハ概算ヲ以テ御徵課アル理由ナシ然ラハ概算科目外ノ費用ハ多少ノ贏余ヲ向
 ハス一応下民ヘ御下向ノ上消費スルハ当然ノ事ト奉存、先以縣广新築師範学校建築費用ノ
 如キ皆是土木起功ノ協議ニ憑ルベキモノニシテ前條堤防架橋費ト同シク五分一ノ民費ヲ以
 テセラレハ下民ニ於テ敬服難仕義ニ付右費用ハ更ニ協議ニ附シ別途御課出相成度右之
 趣奉伺小箇何分御指令相成度此段奉伺矣也

明治十二年
(一八七八年)

明治十一年

二月廿四日

山形縣令

三 嶋 通 庸 殿

才二大区一小区	楯南村	安孫子久右衛門
	楯西村	佐藤清七
	西根村	安達市兵衛
同 大区二小区	米沢村	工藤入之助
	八鍛村	国井門三郎
同	柴橋村	森谷与兵衛
同 大区三小区	左沢村	安孫子傳四郎
	貫見村	松田助太郎
同 大区四小区	睦合村	長登山人
	同 大区六小区	
同 大区七小区	田井村	今田 弥五兵衛
	新町村	旗 長
	上工藤小路村	
同 大区八小区	宇井	鶴之助
	大楨村	高橋 勝兵衛

舊藩學制沿革取調ニ付上申

谷地組合大町外十ヶ村ハ領主各々相異ルアリ 即今大町松橋上工藤小路新町ノ四ヶ村ハ幕府領北口下工藤小路吉田岩木新吉田ノ五ヶ村ハ戸沢領前小路荒町ノニヶ村ハ秋元領ナリ虽然村内一ニノ学識者アレバ何ノ領ヲ論セス皆混同シテ子弟ノ教育ヲ請ヒ而シテ授受スルガ故ニ其学制ニ至テハ聊カモ異ナルナシ依之別紙之通一紙ニ取調以運署上申矣也

明治十六年八月三日

明治十六年
(一八八三年)

西村山郡岩木村戸長 松田 緑郎

全郡吉田村新吉田村戸長 鹿野 武右衛門

全郡北口村戸長 伊藤 藤 豫

全郡下工藤小路村戸長 竹谷 政吉

全郡上工藤小路村戸長 守井 鶴之助

全郡大町村戸長代理係 菊田 陌

全郡新町村戸長 高橋 伊左エ門

西村山郡長
吉見 輝殿

全郡荒町村戸長
石川 保三
全郡松橋村戸長
堀米 要

舊藩学制沿革取調書

舊内学事上ノ諸制度

舊主ノ布令諭達及ヒ学業上進ノ者ニハ加役米又ハ引米等ノ名義ヲ以テ徴課セン間接ノ祿税ヲ免除スルカ如キ奨励法等スル民ヘハ無之

士族ノ子弟教育方法

本民ノ子弟教育方法

家塾子屋ニテ修学セシノミ舊立学校ヘ入学スルヲ許可セシコトノアルヲ尙カズ又農民等ハ学事ニ従事スルヲ禁止セシコトモナシ

家塾寺子屋設置ノ制度

家塾寺子屋ヲ開設スルニ奉行郡宰里正等ノ許可ヲ受ケシ事ナク或ハ他ノ檢束ヲ受クルナシ学識ノアル者ハ自由ニ開設シタリ

舊藩立学校取調要項

学校名称

領内ノ村落ニハ学校ト称スルモノ無カリキ

校舍所在ノ地名

前全上

沿革要略

前全上

教則

前全上

学科学規、試験法及諸則

前全上

職名及俸祿

前全上

職員概数

前全上

生徒概数

前全上

束修謝儀ノ有無

前全上

学校經費

前全上

舊主臨校

前全上

祭儀

前全上

学校構造及建物図面

前全上

舊藩領地内家塾寺子屋

取調要項

名称

名称ヲ附セシモノ無カリキ

所在地

新町村 大町村 北口村 岩木村

塾主氏名

榎藤左エ門 和田利兵衛 田原純達 大倉松峯 石垣吉十郎

学科

修身 讀書 作文 習字

教師ノ数

一塾 名ニ限ル

生徒ノ概教

一塾ニ付盛ナリシ時五拾名ニ過キス 衰テ廿名下ラス
授業ノ順序

習字 讀書 習書 修身 作文ハ稍生長者ニ隔日コレヲ授ク

教科用書

初登山 商賣往來 奧語教 庭訓往來 四書 五經 唐詩送 文送 左傳

學習年限

七年乃至三年

束修謝儀

志ケ年全式朱ヨリ巻函

歳末ニ至ツテコレヲ納ム

塾生ノ行事及著書藏書ノ種類部教

其著シキ行事及著書等アルヲ見ズ

藏書ノ如キハ四書五經唐詩送文送左傳漢書史記等

四書五經ノ如キハ二部或ハ三部モ藏スルモノアリ

塾生ノ身分

平民里正ノ職ニ付キタルモノ或ハ醫師

沿革及雜事

安政年間 極メテ盛ンナリキ

調査セシ事與計敷ニ関スル年代

村落家塾ノ如キモ、ノハ領主代官調査セシコトナク唯学制御領布迄ノ各目視スル處ヲ以テ之ヲ調フ